

審査の結果の要旨

氏名 吉開将人

前漢の時代の前半期、現在の広東省広州市を中心に南越という国があり、漢の支配に従うポーズをとりつつも独立国としてふるまっていた。本論文の第1部では、考古遺物を中心に文献史料と照合しつつ南越の統治の形態と背景となる理念の系譜を解明した。

南越国に関する最も重要な考古学上の発見は、第2代の王のもののみられる墓から出土した豪華な副葬品と「文帝行璽」などの印章群である。およそ秦漢以後の中国にあっては、印章の配布は皇帝が家臣にその権力の一部を委任することの象徴であったから、公的な印章群の組織は、統治の体制を反映する。吉開氏は南越王墓に副葬された印章群と周辺地域で発見された印章の詳細な比較検討から、南越の印の特徴を浮かびあがらせ、それが漢から独立した体系をなし、内臣と外臣の区別に対応するものであったことを論証した。またベトナム発見の「胥浦侯印」が漢王朝の与えた印であるとの従来の説を退け、南越の配布した公印であると認定した。このことは、これまで零細な逸文からかろうじて知られていた南越による現在のベトナムの地の支配を、同時代の考古学資料から裏付けたものであり、ベトナムという国の最初期の歴史に対し重要な知見を加えたものである。

南越印の解明は、そこに「執圭」という戦国楚国と同じ爵位が存在したこと、大きく言えば南越がかつての楚の統治イデオロギーを採用していたことを示す。このことは南越王墓に副葬された鼎の詳細な型式学的分析によっても傍証された。そしてこのような楚の制度の採用の意味を、文献に

記された秦漢交替期の政治状況から読み取り、それが漢に対抗するイデオロギーの一環であり、根源的な対立があったことを明かにした。

また執圭爵が南越時代だけでなくそれを滅ぼした漢の時代にわたることから、この地において異民族の長に与えられた特殊な爵位の存続を明かにするとともに、異民族に与えられた印の蛇形の把手が年代に沿って連続的な型式変化をとげたことを示し、わが国の「漢委奴国王」金印もその型式変化の延長線上にあるとの興味深い仮説を述べる。

戦国の「越」と漢代の「南越」、現在の「越南（ヴェトナム）」の「越」という名称の背景には、「越」を名乗る王朝や民族意識の複雑な連鎖がある。このような脈絡において、南越をその後の統治者が自己とのかかわりにおいてどう評価したか、多数の文献によって追跡したのが第Ⅱ部である。後にこの地域は中国とベトナムの領域に分かれ、南越の歴史に対しても対照的な評価がなされるようになるが、両者を対比しながら展望した研究は、従来なされたことのない広がりや洞察を有するものであり、過去と現在の民族意識のつながりについて我々の疑問に答えている。

この第Ⅱ部は考古学や古代史の立場から評価可能な分野の研究ではないが、第Ⅰ部では、遺物によって政治的統治やその理念を明らかにするという、考古学にとって待望されるが実行は容易でない課題に対し大きな成功を収めたこと、漢側の文献記録からは読み取ることが難しい南越国の統治体制を内部から解明するのに力があつたこと、ベトナムの国家黎明期の解明に貢献したことなど顕著な成果があり、その整然とした実証的分析により、今後の研究にとって多くの確実な定点を提供したものとして高く評価される。博士（文学）の学位を授与するのにふさわしい業績である。